

MGI030-04

会場:201A

時間:5月25日 09:15-09:30

## 土木地質調査分野における物理探査結果の標準書式の提案

### A proposal for a recommended standard format for geophysical data for civil engineering applications

高橋 亨<sup>1\*</sup>, 稲崎 富士<sup>2</sup>, 倉橋 稔幸<sup>2</sup>, 物理探査学会書式検討研究委員会<sup>3</sup>

Toru Takahashi<sup>1\*</sup>, Tomio Inazaki<sup>2</sup>, Toshiyuki Kurahashi<sup>2</sup>, SEGJ Digital Standard Format Consortium<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 深田地質研究所, <sup>2</sup> 土木研究所, <sup>3</sup> 物理探査学会

<sup>1</sup>Fukada Geological Institute, <sup>2</sup>PWRI Tsukuba Central Institute, <sup>3</sup>SEGJ

地下構造と物性に関する情報は、極めて重要な国土情報の1つであり、国民全体で共有が図られるべき公共財産である。地盤情報の主体をなすボーリングの結果は、XML形式のデジタルファイルとしてデータベース化が行われつつある。ボーリングに伴う土質試験結果として土質材料の基本物性も標準書式化され同じデータベースに保存されている。

これに対して、SEGYやSEG2形式に代表されるように反射法地震探査についてはデータの標準書式が決められているものの、その他の電気探査や表面波探査などその他の物理探査結果については、探査結果の記述形式は標準化されておらず、流通や共有化を進める上で障害となっている。

そこで、物理探査学会では、物理探査結果の標準書式化を目的に研究委員会を設立し、「KuniJiban」という地盤情報のデータベースを作成、公表している土木研究所の協力を得て、検討を開始した。現在、土木分野で利用頻度の高い、屈折法地震探査、表面波法地震探査、比抵抗法電気探査を優先し、2次元探査結果の表示に至るまでのデータ記述形式と表示書式を検討している。データの記述形式は、XML形式とし、2次元断面の表示形式としては、セル方式と節点方式での物性表示を基本としている。XML化したデータは一部試作版として、土木研究所のホームページに掲載する予定である。

キーワード: 物理探査, 土木地質分野, 標準書式

Keywords: geophysics, civil engineering, digital standard format